



中海・宍道湖・大山圏域 市長会 通信 21

中海・宍道湖・大山圏域市長会
第3回総会（3月12日）

令和4年度の事業計画と当初予算について協議。圏域振興ビジョンに掲げる圏域発展の理念に基づき、主に次の方針で展開します。

- 台湾との経済等交流の再開
「台湾との経済交流事業」においては、延期となっている圏域と台北市との経済等交流促進に関する覚書の早期締結を行い、海外との交流促進へ繋げていきます。
- 圏域インフラの整備促進
両県ならびに圏域経済界におい



▲手を取り合う圏域の首長の皆さん。

て「圏域8の字ルート」の気運が醸成される中、本会でも圏域8の字ルートに係る研究会を立ち上げ、早期実現に向けた取り組みを進めます。

- ニューノーマルへの対応

新型コロナウイルス感染症を契機として、デジタル化の加速、環境への意識の高まりなど社会情勢が大きく変容しています。DX（※）の推進を図るための人材育成や、オンラインを活用した観光誘客、圏域の恵まれた環境に関する普及啓発等、新たな取り組みも推進していきます。

- ※DX：デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること
- 地方創生へのチャレンジとリトライ

地方創生推進交付金を活用しながら事業を推進し、既に推進基盤が確立する事業（「インドとの経済交流事業」「産学・医工連携事業」「観光インバウンド事業」等）は、引き続き事業の活性化を図ります。

問い合わせ

中海・宍道湖・大山圏域市長会事務局

☎0852・55・5056

先月号に続き日本遺産「出雲國 たたら風土記」の構成文化財を紹介します。

日本遺産を
巡るたたら
の音色
日本遺産の
構成文化財
連載③



金屋子神社と西比田の町

火を扱い製鉄・鍛冶・鋳物などをなりわいとする人びとがその守護神として祭っている金屋子神社。伝えによれば高天原から播磨国志相郡岩鍋（兵庫県宍粟市千種町岩野辺）の地に降りてきて、鍋釜など鉄器鑄造の技術を伝授しました。さらに「吾は西方を主る神なれば西方に赴かば良き宮居あらん」とシラサギに乗って出雲国能義郡比田村黒田（広瀬町西比田）の奥にあった桂の木の枝に飛来しました（諸説あり）。

ここで安部氏（現金屋子神社宮司の先祖）に出会い「吾は金屋子神なり、今より此処に宮居し踏躰を立て鉄吹く術を始むべし」と宣言して製鉄法を伝授。そののち、その地に祭られ、たたら製鉄盛行期の江戸時代後期には中国山地一帯に広範な信仰圏が築かれています。

安来市と奥出雲町を結ぶ街道沿いに位置する「西比田の町」はた

たら製鉄の発展と共に金屋子神社の門前町としてにぎわいを見せていました。町の南端にある石灯笼は参道の起点にあり、ここから約2kmの坂道を経て神社にたどり着きます。正面に大きく金屋子神社と刻まれた石灯笼は明治23年にたたら関係者によって建立されました。支援者は周辺の比田、安来、奥出雲町をはじめ下関、大分、宮崎、愛媛、大阪など広範囲であり、明治中期の鉄の生産と流通圏であったことがうかがえます。現在も鉄産業に関わる人びとの金屋子神への信仰心はあつく、特に春と秋の例祭はにぎわいを見せ、たたらや鍛冶職人、鉄鋼産業に関わる人びとが参詣しています。



▲広瀬町西比田にある金屋子神社（島根県指定有形文化財）。全国に1200あるたたら神「金屋子神」を祭る総本社です。

問い合わせ

和鋼博物館
☎23・2500

